

# 地域産業資源活用の促進について

経済産業省 中小企業庁



## 「地域経済環境の構造変化の進展を踏まえた中小企業支援策の在り方について」

(平成19年2月中小企業政策審議会経営支援部会報告書)

・・・少子高齢化と人口減少社会の到来、グローバル化と国際競争の激化など、・・・我が国経済が、こうした環境の構造変化に的確に対応し、今後も発展を続けていくためにも、各地域において・・・「強く」、「魅力ある」経済が確立していくことが重要である。そのため重要な核となるのがそれぞれ地域の強みである「地域資源」の活用であり、特に地域経済を支える中小企業によって創意あふれる事業展開が活発に行われることが地域経済の活性化の鍵を握っている。

## 第一 総論

地域で暮らす人々の生活や中小企業や小規模事業者の方々は未だに厳しい状況に置かれており、人口減少という厳しい現実にも打ち勝つ必要がある。地域の経済構造に関する思い切った改革を進め、地域全体の持続性を高める上で核となる特色ある産業を育てるための総合的な対策を講じていく必要がある。言うまでもなく、成長戦略の目標は、グローバル社会の中で、我が国の中長期的な成長を確固たるものとするにとどまらず、アベノミクスの効果を全国に波及させ地域経済の好循環をもたらし、いわばローカル・アベノミクスにより、最終的には地方の元気を取り戻し、国民一人一人が豊かさを実感できるようにすることである。

## 6. 地域活性化・地域構造改革の実現/中堅企業・中小企業・小規模事業者の革新

- (3) 新たに講ずべき具体的施策
- ② ふるさと名物応援

中小企業地域資源活用促進法を見直し、品質管理の徹底など消費者の購買意欲を喚起する仕組みを組み込みつつ、地域資源を活用した「ふるさと名物」の開発・販路開拓を推進するとともに、観光（自然、文化、産業遺産等）や農林水産品など地域資源を活用して消費者を地域に呼び込むツーリズムを促進する。

くなぜ国が地域産業資源活用事業計画の認定を行うのか。>

○地域産業資源活用事業の促進により、地域経済の活性化を通じた我が国経済の持続的成長を達成するためには、地域経済への波及効果をもたらずモデル的事業を全国レベルで選定し、広く全国に周知、普及を図ることが必要。

○「地域経済への波及効果」の評価に当たっては、全国及び海外に及ぶ域外需要を取り込めるか、という全国的な視点が必要。

くなぜ都道府県が地域産業資源の指定を行うのか。>

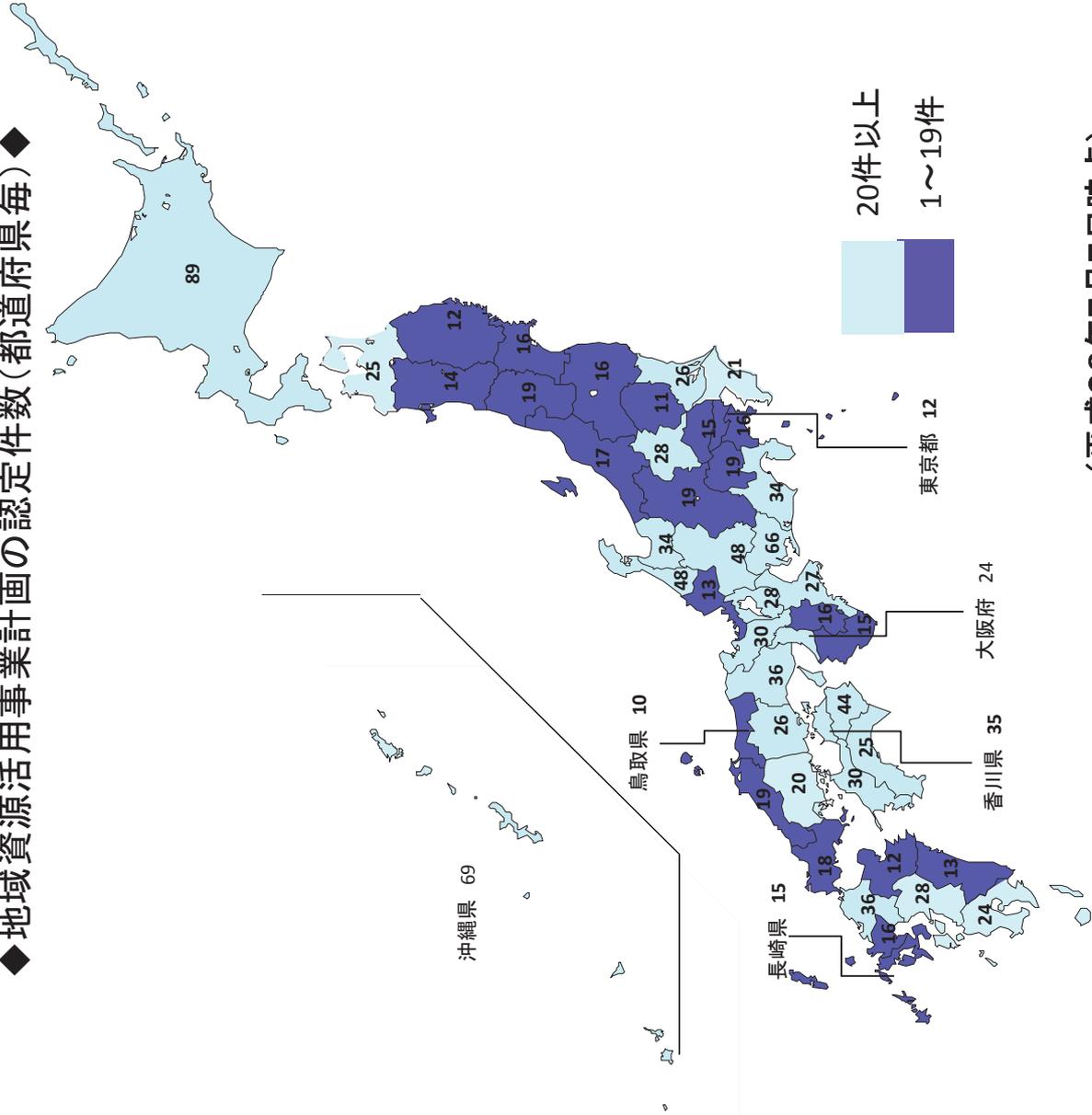
○地域産業資源は多様であり、それぞれが各地に偏在しているため、国が一律に指定するのではなく、地域ごとの資源の賦存状況に知見を有する都道府県がこれを指定することとしている。

# ＜参考＞地域産業資源活用事業の認定件数

◆地域資源活用事業計画の認定件数(ブロック毎)◆

経産局	件数						計		
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		25年度	26年度
北海道	26	29	18	4	6	5	1	0	89
東北	26	15	18	10	6	12	13	2	102
関東	51	43	37	19	21	18	26	3	218
中部	45	47	39	21	24	22	21	4	223
近畿	32	40	40	12	10	11	14	3	162
中国	34	22	16	2	2	7	8	2	93
四国	32	22	30	12	14	18	6	0	134
九州	37	32	27	6	5	13	18	6	144
沖縄	22	11	9	6	5	5	11	0	69
計	305	261	234	92	93	111	118	20	1234

◆地域資源活用事業計画の認定件数(都道府県毎)◆



(平成26年7月7日時点)

## 地域産業資源活用事業の事例

### 道産農産物を主原料としたスキンケア商品の改良・開発および販路開拓

#### 【株式会社アビサル・ジャパン(北海道札幌市)】

- ◆ 職立社長は、米国で勤務していた頃に聞いた「風呂に砂糖を入れると肌がしっとりする」という話をヒントに、砂糖のもつ薬効薬理に着目して、砂糖を原料としたスキンケア商品の商品化・販売のため、出身の広島県で平成16年に起業。
- ◆ 国内の100種類以上の砂糖で試験を進め、優れた存在としてとどり着いたのが、品質がよく、遺伝子組み換えなしでトレーサビリテイがクリアな北海道産のビート(甜菜糖)。その後、北海道産素材を主原料としたスキンケア商品の開発・販路拡大を目指し、平成20年に計画認定を取得し、また、原料の安定調達のためにも生産地と直結するのは大切との考えから翌21年に本社を札幌へ移転。製品の安全性と機能立証のため3千人以上(内乳幼児2千人)の人試験による研究を重ね国内外の学会で発表。
- ◆ 北海道外への販路開拓に当たり、東京の展示会に出展し、専門家による実地アドバイス等を行った結果、年々順調に売上を伸ばし、認定計画期間が終了した平成24年度には、約1.5億円／年の売上を達成。その後の売上も拡大しており、海外での販売など新事業にも取り組んでいる。



スキンケア商品



甜菜畑



### 京和傘の意匠・構造を活かした新型和風照明の開発及び販売

#### 【株式会社日吉屋(京都府京都市)】

- ◆ (株)日吉屋は、江戸時代後期から続く伝統的な和傘づくりを行っており、一時は売上が大幅に減少し、廃業の危機を迎えたが、和傘の技術を活用した和風照明の開発に取り組むことを決意。
- ◆ デザイン照明はニッチな市場だが、顧客の要望に応じた商品づくりを展開するビジネスプランを練り、本格的な事業化へ向け、地域資源活用事業の認定を受ける。認定後は、新商品を次々と市場に投入する一方、国内外の展示会へ出展することにより、知名度が上がり、引き合いが増加した。
- ◆ また、経産局、中小機構、JETROからの支援を受け、海外進出に向けた情報発信も意欲的に取り組んだ。その結果、今では15カ国で代理店取引を行うまでになっており、同社の売上げの3分の1が照明、さらにその3分の1が海外の売上げとなっている。
- ◆ また、手作りの京都の伝統工芸が、海外展開するような職場にはモチベーションをかき立てる魅力があるからか、傘職人の募集を行うと、やりがいと生きがいを求めて全国から志願者がやってくるまでになっている。



和風照明「古都里—KOTORI—」



上海にある大手コーヒー店の照明に採用された「MOTO」

### 熊野筆の技術を活用した化粧筆の開発・販売事業

#### 【有限会社竹田ブラシ製作所(広島県熊野町)】

- ◆ 広島県熊野町は日本を代表する筆の産地で、江戸時代から伝わる熟練の技術が継承されている。(有)竹田ブラシは、地域資源であるこの技術を最大限活用する方策として「化粧ブラシ」に活路を見だし、地域資源活用事業の認定を受け、新商品開発に取り組んだ。
- ◆ 新商品のターゲットは「化粧や化粧道具にこだわりの持つ女性」で、高品質で利便性が高く、安全で衛生的というコンセプト。平成23年には「なでしこジャパン」へ国民栄誉賞が授与された際の副賞に同社の化粧筆が用いられたことから、国内外で一躍有名となった。
- ◆ 女性が美しくなりたいというのは世界共有の願望であり、化粧ブラシは女性なら必ずといっていいほど持っている化粧道具で、買換需要もあるなど市場規模は小さくない。経産局からの支援を受け、国の認定を受けたことも前面に打ち出し、海外展示会への出展攻勢をかけたことで、海外においても認知度が向上し、海外販路の拡大にも繋がっている。



国民栄誉賞の副賞として「なでしこジャパン」に贈られた化粧ブラシ



携帯用化粧ブラシ